

令和4年度 埼玉県公共事業景観形成指針 専門家アドバイス【施工段階】 草加柿木地区産業団地

①基本設計段階のアドバイスへの対応

- (1) 地域の中での位置づけを意識し、設計することが望ましい。
⇒ 産業団地就業者や近隣住民の利用動線を考慮した出入口や各施設を配置した。
地域の一時避難場所として位置づけ、平坦な避難スペースを確保し、太陽光照明を配置するなど避難時に滞在しやすい空間となるよう配慮した。
- (2) 利用者を招く工夫をするとよい
⇒ コミュニティー性の高い「動」の空間である公園エリアには、複合遊具施設や築山を配置した。また、季節ごとに表情が変わる落葉樹、アイストップとなるシンボルツリーを植樹した。さらに、「静」の空間である調整池エリアには、在来種の桜を列植し、春には花見を楽しめるようにするなど、子ども連れの家族が楽しめる工夫をした。
- (3) 樹木の選定や配置に関するアドバイス
⇒ 樹木は維持管理がしやすい樹木を選定し、各エリア毎の特性にあわせ、公園部にはイロハモミジやケヤキ、調整池にはヤマザクラやクヌギなど異なる植樹を行った。
また、調整池は自然エリアとなることから多様性をもたせ、鳥などが飛来しやすい実のなる樹木も配置した。



避難スペースの確保



築山からの眺望



シンボルツリーの眺望

②完成した事業の評価 及び 今後に向けたアドバイス

- (1) ビオトープについて
・基本設計段階のアドバイス「利用者を招く工夫」を受けて調整池をビオトープとしたことは評価できるが、十分に維持管理されているとは言えない状況に見受けられる。適切に維持管理することが重要であることから、地域と連携した維持管理の体制づくりを検討することが望ましい。
- (2) 緑のメンテナンスについて
・エリアごとの特性を生かした多様な緑の配置となるのは良い。
・緑のメンテナンスについては、管理が大変であることが想像できるので、地元住民との協力体制の構築や緑地協定の締結など将来的に緑の量や質を担保できる体制を検討することが望ましい。
・さらに、親しみを持てる空間とするために、樹木ごとのネームプレートやビオトープの楽しみ方の情報表示を行うことが望ましい。
- (3) 出入口のデザインについて
・公園へのアクセスの向上、たまりスペースのために公園出入口周辺は、インターロッキングブロック舗装をしたことは良いが、もう少し落ち着いた色彩の方が望ましい。
今後補修が必要となった際には、自然石風やより落ち着いた色彩への変更も検討してほしい。



ビオトープの植樹



出入口の舗装